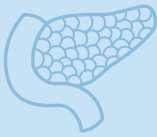
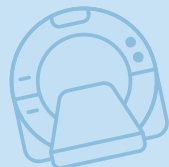


たけやま よしふみ
監修:竹山 宜典先生



すい
膵臓をよく知ろう

～膵臓の病気のこと～



KUBIX
株式会社キュービクス

KAIGEN
カイゲンファーマ株式会社

医療機関名



ご存じでしょうか。 膵臓の病気になる方が 近年増え続けています。

膵臓の病気には、にわかに炎症を起こす急性膵炎や飲酒が主な原因の慢性膵炎、石ができる膵石、また袋状の液たまりができるのう胞などがあります。さらに重大な病気としては膵がんがありますが、早期治療で予後が大きく改善できるため、早期診断が必要不可欠と言われています。^{※1}

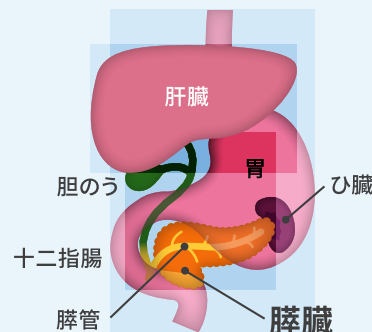
あなたの健康と未来を守りたい、
このあと膵臓の病気について一緒に見ていきましょう。



■膵臓はこんな役割

膵臓は胃の裏側にある20cmほどの細長い臓器です。膵臓の役割は「膵管」と呼ばれる管から膵液という消化液を出して糖や脂質、タンパク質など食べ物の消化を助けることです。また、インスリン等のホルモン分泌によって血糖値の調整もおこなっています。

膵臓の位置



膵臓の主な働き

膵液
(消化液等)
の分泌

ホルモン
(インスリン等)
の分泌



膵臓はいろいろな役割を担っている
重要な臓器なのね。



特に消化器官としての膵臓の病気について
詳しく見ていきましょう。

すい 膵臓の病気について

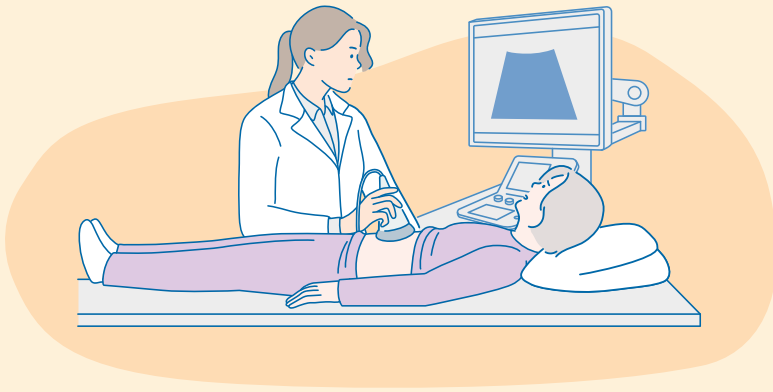


■急性膵炎と慢性膵炎

急性膵炎は膵臓が急に炎症を起こす病気です。主な原因は飲酒と胆石です。症状は上腹部痛、背部痛、吐気、嘔吐、発熱などがあり、悪化すると、意識障害やショック状態など重症化することもあります。



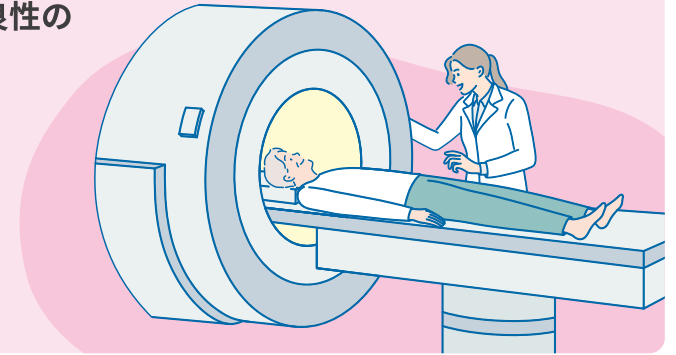
一方で、膵臓の炎症が長く続き、正常な細胞が破壊されて硬くなっていくのが慢性膵炎です。原因の多くは飲酒です。徐々に機能が失われていき、進行するとがんになる可能性が高くなります。



■膵のう胞

膵臓の内部などにできる液体の袋のことで、症状はなく、他の部位の検査で偶然見つかることがあります。

膵炎に伴ってできる良性のう胞もありますが、炎症とは関連のない「腫瘍性膵のう胞」もあります。



■膵管内乳頭粘液性腫瘍 (IPMN)

「腫瘍性膵のう胞」の一種です。膵管の中でイボのように大きくなる腫瘍で、粘液を分泌します。それによって膵液の流出が妨げられたり、病変が大きくなると、腹痛や背部痛などの症状が現れます。基本的に良性ですが、進行して悪性(がん)に変化することや、膵臓内の他の部位にがんが発生することもあります。



自覚症状がない場合があるのね。



膵臓の病気からがんが見つかることもあるので、注意する必要があります。

すい 膵がんについて



■膵がんとは

多くは膵管から発生し、周囲に広がって転移しやすいのが特徴です。主な症状は腹痛、食欲不振、腹部膨満感、黄疸、体重減少、腰や背中の痛みなどがあります。



膵がんはがんの中でも特に治療が難しいといわれています。主な理由は次の通りです。

膵臓はおなかの奥にあるため画像による診断が容易ではなく、また他のがんのように有効な検診方法がありません。さらに初期症状が現れにくいため、早期発見が難しく、診断時には進行していることも少なくありません。



早期の段階で見つけるには、どんなことに気をつければ良いのかしら？



これまでの研究で、膵がんになるリスクを高める危険因子が分かっています。

もしかしてあなたに当てはまるかも...？

こんな方はご注意ください

- 親子・兄弟姉妹が膵がんを発症した方
- 喫煙される方 飲酒される方
- 糖尿病の方 肥満の方
- 慢性膵炎、膵のう胞などの膵臓の病気がある方



私にも当てはまるものがあるわね... どうしたら良いかしら。

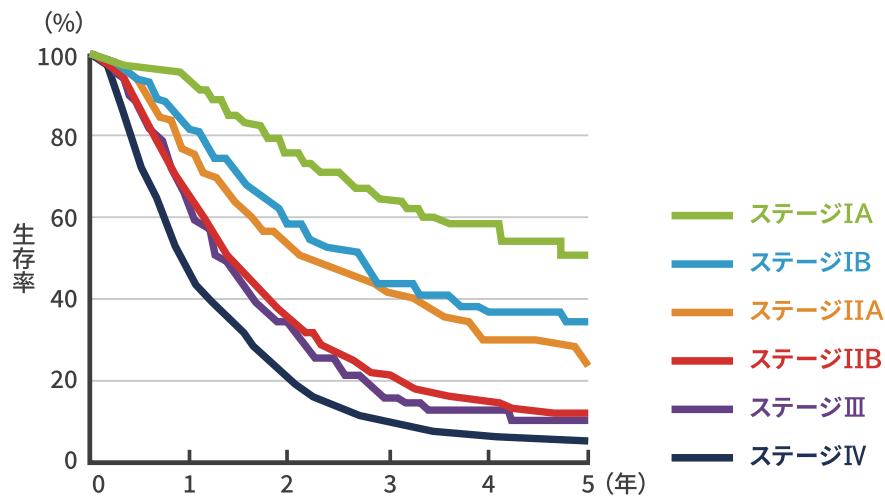


当てはまる場合は特に気をつけてほしいですね。まずは専門医に相談してみましょう。



膵がんの進行度(ステージ)別の治療による効果を見てみましょう。

膵がん登録症例における進行度(ステージ)別の生存率^{※2}



(ステージはがんの進行度を表しています。ステージIVに近いほど進行している状態です。)

※2. 日本膵臓学会編「膵癌取り扱い規約」第8版(金原出版)より
全症例:3,315例 Stage II B症例では転移個数の記載のないものも含めて解析 2001~2007年



早く見つけて手術をすれば、
治療が難しい膵がんでも治るのね。



そのとおりです。
次は膵臓の主な検査方法について見てみましょう。

■血液検査

血液で膵がんとの関連が疑われる値を調べます。例えば、膵炎や膵がんがあるとリパーゼ等の膵酵素が高値になることがあります。また、CA19-9等の腫瘍マーカーも高値になることがあります。

■画像診断

膵がんの有無や位置、大きさなどを観察するため、腹部超音波検査(エコー)や造影CT、造影MRI(MRCP)のほか、超音波内視鏡で胃壁や十二指腸越しに観察するEUS、造影剤を使用して膵管をX線撮影するERCPが主に行われます。

■病理検査

EUSを行った際に病変が見つかった場合は、その一部を針で吸引採取するEUS-FNAでがんの有無を調べます。また、ERCPの際に膵管に細い管を挿入し、膵液を連続的に採取して調べる検査(SPACE)がおこなわれることもあります。



新しい検査方法や取り組み



■膵がんの早期発見を目的としたプロジェクトが全国で進行中

中核病院と開業医が連携し、長年にわたり啓発活動などを進めている尾道市の「膵がんプロジェクト」をはじめ、全国30以上の地域や医療機関で早期発見を目的とした取り組みがされています。

■検査機器の画質や機能が向上

近年、低被ばくかつ高精細なフォトンカウンティング検出器を用いたCT装置や、組織の硬さを数値化できる超音波内視鏡など、画質や機能が優れた検査機器が研究開発されています。

■膵がんを簡単に早期発見できる時代へ

採血するだけで膵がんを調べられる遺伝子発現検査（メッセンジャーRNA検査）のような新しい方法も最近承認されました。



時代とともに新しい検査が開発されているのね。これなら手軽に受けられそうだわ。



発見が難しかった早期の膵がんも、これからはもっと見つかることが期待されています。

少しでも「膵臓」に不安のある方は、
専門医にご相談ください。



たけやま よしふみ
監修：竹山 宜典先生

近畿大学 名誉教授
社会福祉法人 大阪暁明館 大阪暁明館病院 顧問
一般社団法人 日本膵臓学会 名誉理事長